

第 17 回医学図書館研究会継続コース

目次

継続教育	講師：山口直比古氏（東邦大学医学メディアセンター）	2
	演題：臨床論文を読む	
継続教育	講師：岩下愛氏（国立国際医療研究センター図書館）、野田久愛氏（東京女子医科大学図書館）	3
	演題：文献検索講習 中級編～検索力を身につける（医中誌 Web と PubMed の解説を中心に）～	
研究会 1.	斎藤えりか、阿部信一（東京慈恵会医科大学学術情報センター）	4
	東京慈恵会医科大学における学術リポジトリの開発・運用の取り組み	
研究会 2.	原千延（財団法人国際医学情報センター 医薬情報部）	5
	医学・薬学・医療情報のスペシャリストを目指して：財団法人国際医学情報センター（IMIC）での取り組み	
研究会 3.	作野誠、柿田憲広、中野弥生、富田一文（愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター）	6
	愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センターにおける大学院授業サポートの事例	
研究会 4.	西さやか（東京医科大学図書館）	7
	より迅速な医学文献提供を目指して：東京医科大学図書館相互貸借統計分析より	
研究会 5.	小林成江、矢口裕子、吉新裕昭、篠崎徳子（獨協医科大学図書館）	8
	ニーズアンケート集計結果に基づく図書館整備	
研究会 6.	竹内ひとみ（実践女子大学図書館学課程非常勤講師）	9
	大学司書課程（専門資料論）における病名別パスファインダーの作成・方法・評価	
研究会 7.	江藤夏子、今泉千代（日本看護協会図書館）	10
	看護文献データベース「最新看護索引 Web」の作成と利用動向	
研究会 8.	佐藤晋巨（聖路加看護大学図書館）、石川道子（川鉄千葉病院看護専門学校非常勤講師）	11
	市民向け情報閲覧コーナーの活用きっかけづくり ブックリスト改訂～プロジェクト立ち上げ～	
研究会 9.	大岩美恵子（総合病院聖隷三方原病院図書室）	12
	患者図書室の継続的運営の取り組み—開室 11 年目を迎えて—	
研究会 10.	鷹野祐子、赤沢友子（東京都神経科学総合研究所図書室）	13
	（財）東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所 図書室の歩み	
研究会 11.	塚田薫代（静岡県立こども病院図書室）	14
	臨床の現場で学ぶ医学情報—公共図書館員向け「医学情報キホン勉強会」を主催して—	

臨床論文を読む

東邦大学医学メディアセンター

山口直比古

科学的根拠に基づく医学(EBM)の方法論では、そのプロセスは 5 段階に分けられている。ステップ 1 は「問題の定式化」で、臨床に基づくクエスチョン(クリニカルクエスチョン)が設定される。ステップ 2 の「情報収集」では、主として文献検索によりエビデンスの元となる論文が集められる。ステップ 3 では「批判的吟味」として、文献検索の結果集められた論文を読み、その持つ臨床的な意味合いや確かさが吟味される。ステップ 4 は、集められたエビデンスに基づく「臨床への応用」が行われる。最後のステップ 5 では、以上の過程を再評価し、ステップ 1 へフィードバックされる。

これらのステップのうち、2 番目の文献検索は医学図書館員の活躍できる部分であり、日本医学図書館協会の受託事業を含めて、すでに多くの診療ガイドライン作成に医学図書館員が参加してきている。しかしながら、その文献検索においても、単にキーワードにより検索を行い、その結果を診療ガイドライン作成委員へ渡すだけでは十分ではない。まず、自分の行った検索の結果が、求められているものであるのかどうかを評価できなければならない。多くのノイズを含んでいたり、場合によっては見当違いの検索を行っている可能性もある。これを防ぐためには、クリニカルクエスチョンをよく理解できるだけではなく、検索の結果が的確なものであったのかどうか評価できなければならない。そのためには、少なくとも検索結果の論題は読まなければならない。時には抄録も読む必要があるだろう。さらには、論文自体も読み、EBM の次のステップである論文の「批判的吟味」の入り口程度はできなければならない。

今回の研修では、臨床論文を読む際のポイントを、症例報告と、エビデンスレベルが高いとされる RCT (ランダム化比較試験) の論文を、実際に読むことにより把握していただく。日本語の論文ばかりではなく、臨床的にはより重要であるとされている英語の論文も読んでいただく。特に RCT においては、こうした部分が記述されていなければならない、という評価基準である CONSORT に基づく評価を行い、RCT で記述されなければならないポイントについて学ぶ。

以上の前提として、論文の構造や、URM のような標準的な記述推奨なども紹介する。特に、構造化抄録に記述されている事項については、どのような事項がどのような順番で記述されているのかを知り、読む上でのポイントをつかむ。また、診療上のエビデンスを作る方法である臨床試験の重要性やその進め方についても紹介し、臨床研究が診療の実際へと適用されてゆく過程についても触れる。これらの一連の、臨床研究が論文となり、投稿され、医学雑誌に掲載され、読まれ、その上で臨床上の重要さが認められて臨床に適用されていく過程を知ることにより、論文の果たす役割や論文の書き方の重要性を知ることになる。

よく書かれた論文は、医学を発展させる推進力となる。その論文が、よく書かれているかどうかを読み取れることができるかどうか重要である。

文献検索講習 中級編

～ 検索力を身につける（医中誌 Web と PubMed の解説を中心に）～

岩下 愛

国立国際医療研究センター図書館

野田久愛

東京女子医科大学図書館

文献検索では探しているテーマや情報について、適切なツールを選択し、最適な検索結果を効率的に得ることが求められる。漏れなく網羅的に広く情報を集めるか、より関連の深い情報を取り出すのか、検索の目的を意識しながら戦略を立てることが重要となる。今回の文献検索講習中級では、主に文献検索の基本的操作ができる方が、検索プロセスを確認することにより、的確な検索結果を導く方法を紹介したい。

まず検索の精度を上げる効果的な方法のひとつとしてシソーラスに注目し、その特徴を理解した上で、検索に活用できるようにしたい。また忙しい日常業務の中、見逃したり気付きにくい文献検索のコツを再発見することで、応用力を備えることを目指す。

なお、この講習では、文献検索データベースの基本操作ができる方を対象とする。具体的には、「パソコンの文字入力がスムーズにできる」「文献検索の概念である論理演算子（AND/OR/NOT）を理解している」「文献検索データベースの検索ボックスにキーワードを入れて検索ができる」「検索結果の画面で表示形式を詳細表示にし、書誌情報を読み取ることができる」「基本的な絞込みや履歴検索ができる」ことを想定した。

【講習の目標】

- ・ 効果的な検索式を組み立てる
- ・ 医中誌 Web、PubMed の特徴を知る
- ・ 検索にシソーラスが必要な理由がわかる
- ・ 医学用語シソーラス、MeSH について理解する
- ・ 医学用語シソーラス、MeSH を使った検索における注意点がわかる
- ・ 論文のエビデンスレベルについて理解する

【講習の概要】

- ・ 医中誌 Web、PubMed の基本的な検索方法のおさらい
- ・ 自動マッピングの仕組みを理解する
- ・ シソーラスを使いこなす
 - MeSH、医学用語シソーラスの構成の理解
 - 副標目を使った検索、メジャー検索
 - MeSH Database と MeSH Browser の違いと利用方法
- ・ 検索式の編集
- ・ 研究デザイン、論文の種類とエビデンスの概要

東京慈恵会医科大学における学術リポジトリの開発・運用の取り組み

斎藤えりか 阿部信一

東京慈恵会医科大学学術情報センター

1. 東京慈恵会医科大学と学術リポジトリ

東京慈恵会医科大学(以下、本学)は、明治 14 年(1881)5 月に開設された成医会講習所を起源とするが、その母体となった成医会はそれに先立つ 1 月に高木兼寛や松山棟庵らによって設立された。その目的は「学術ヲ研究」し「国民ノ疾病ヲ治癒」することにあり、毎週開催された医学集会の内容を収載した雑誌「成医会月報」を発刊し、研究成果の普及をはかった。また、明治 18 年からは英文号も発行し、欧米諸国の医育機関、研究所等に送付し、刊行物の交換を行った。

近年のインターネットの普及に伴い、本学における学術研究成果を図書館システムの機能の利用による保存と公開などにも取り組んできた。平成 19 年(2007)に国立情報学研究所の学術機関リポジトリ構築連携支援事業による委託金を得て、本学の機関リポジトリである「東京慈恵会医科大学学術リポジトリ(以下、学術リポジトリ)」を構築し、平成 20 年(2008)より公開した。その目的は先述のような成医会の精神に連なるものであり、本学の研究成果を国内外に広く伝え、人々の健康増進に寄与することにある。

2. 学術リポジトリ構築と運用の概要

学術リポジトリ構築に当たり、以下の 4 項目を実施した。

(1) 運用体制の整備

業務責任者を学術情報センター長とし、学術リポジトリの構築・運用に伴う作業は、学術情報センター職員が担当する。運用において生じた問題については、必要に応じて、関連部署・委員会との連携により解決をはかるという体制をとることとした。

(2) 学術リポジトリ用サーバの導入とシステムの構築

学術リポジトリ運用のための専用サーバを購入し、リポジトリ構築ソフトウェアは実績が比較的豊富な DSpace を採用、外注によって学術リポジトリのシステムを構築した。

(3) コンテンツの登録・公開手順の取り決め

本学刊行物の記事を電子化し、メタデータを付与した後、学術リポジトリに登録して、インターネット公開した。この作業を通してコンテンツの登録・公開手順を確認し、学術リポジトリ運用規則(暫定版)を作成した。

(4) 学内への広報

学術リポジトリの運用開始について、学術情報センター長が医学科教授会議で報告したほか、学術情報センター職員が関連部署・委員会に出向いて説明をした。

以上、4 項目の実施により、平成 20 年 3 月に試験公開し、画面レイアウトや検索機能の調整の後、平成 20 年 5 月に正式公開した。

3. 今後の課題

学術リポジトリへの登録コンテンツは、本学から公的に刊行された記事を対象とすることとした。現在は、遡及データの収録やアクセシビリティの向上に取り組んでいる。

医学・薬学・医療情報のスペシャリストを目指して：財団法人国際医学情報センター(IMIC)での取り組み

財団法人国際医学情報センター 医薬情報部
原 千延

IMIC の紹介

IMIC は、1972 年に慶應義塾大学医学情報センター(北里記念医学図書館)を母体に発足した財団である。「信頼できる医学・薬学・医療情報を適切に提供することによって健康社会に貢献します。Intelligence for Health」というビジョンを掲げ、国内外の医学・薬学情報を収集・分析・提供し、ユーザーの研究・臨床・教育を情報面でサポートすることを目指している。また、その実現のために必要な知識・情報に精通し、技術を習得することをミッションの一つとしている。

IMIC の活動

医学・薬学情報の収集・利用をサポートする業務として、国内医薬品安全性情報速報サービス(SELIMIC)、翻訳サービス、メディカルライティング、データベースコンテンツ作成、文献複写、文献検索、医薬品の適正使用情報に関する資料作成、著作権許諾代行サービスなどがある。また、学会の事務局代行、臨床研究事務局業務、EBM 支援業務などで研究活動をサポートしている。

IMIC 職員に求められるもの

現在 IMIC には約 220 名が勤務しており、その中には医学博士、理学博士、歯科医師、獣医師、薬剤師、翻訳技術者、司書、データベース検索技術者、IT 技術者などの資格を有する者が多数いる。日々の業務では、医学・薬学の専門知識のみならず、英語(語学力)、検索技術、ライティングに関する知識など、求められる知識・スキルは多岐にわたる。そのため、互いに精通した分野の知識を持ち寄り、互いの知識を補い合うチームワークが重要となる。しかし、日々新たな情報が生まれ、進歩している分野の情報を扱うことから、自ら学び、自己をアップデートしていく努力も必須である。

IMIC の研修プログラム

IMIC では平成 19 年度から会員を対象としたセミナーを開催しているが、これとは別に職員向けの研修セミナーも行っている。これまでにメディカルライティング、医学英語、データベース検索、GVP(Good Vigilance Practice)などの研修が行われてきた。しかし、開催時期や研修内容がその年毎に変更となるため、入職・異動のタイミングによって業務に必要な研修を受ける機会に差が生じていた。

そのため、今年度からより計画的かつ体系的に必要な知識が得られるよう、基礎知識(薬理学と薬剤学、疾病と治療、法令・制度)、実務知識(医学英語、ライティング、情報学・データベース検索など)、ビジネススキルなどを織り交ぜた年間の研修プログラムが作成された。主にその分野に精通した職員が講師を担当し、IMIC 内での知識の共有と伝承に取り組んでいる。当日はこのプログラムと自身が担当する研修について紹介する。

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センターにおける大学院授業サポートの事例

作野誠¹⁾，柿田憲広，中野弥生²⁾，富田一文²⁾

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター

1. 発表の趣旨

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター（以下「センター」）では、年度初めのオリエンテーション時に行う「図書館ガイダンス」を専任職員と委託スタッフが協力して実施している³⁾。これに対して、授業サポートは専任職員の業務として実施している。学部性格上、センターのサポートする授業は、学部課程では難しく、大学院での実施となっている。平成 22 年度は、歯学研究科で特別講義「図書館情報の利用法」を 60 分授業 5 コマ、薬科学研究科で「医中誌、PubMed の使い方」90 分授業 1 コマを担当し実施した。

2. 大学院授業サポートの発端と実施

平成 21 年の 3 月初旬に大学院歯学研究科主任から、平成 21 年度から歯学研究科では、従来 1 年生を対象に行ってきた実験計画法講義に加えて、図書館情報の利用法、論文の書き方、遺伝子解析法の 3 つの科目を特別講義として実施することになったので、センターにおいても、センター長の責任において担当して欲しい旨の依頼があった。そこで、JPLA の教育研究委員に個人的に相談し、東海地区医学図書館協議会の協力を得て平成 21 年度は 90 分授業 6 コマを実施した。

平成 21 年度大学院歯学研究科特別講義 13:00～14:30				
日時	講義名		内容	担当者
5/19(火)	図書館の利用法1	歯学・薬学図書館情報センターの所蔵資源と歯学資料	歯学・薬学図書館情報センターの所蔵資源	花村・作野
5/26(火)	図書館の利用法2	医学図書館の機能とネットワーク	ネットワークの在り方と図書館のつながりについての講義	柿田(学外)
6/2(火)	図書館の利用法3	情報検索1：医学中央雑誌(WEB版)を中心に	医中誌についての講義・実習	作野・中野・石田・富田
6/9(火)	図書館の利用法4	情報検索2：PubMedを中心に	PuMedについての講義・実習	作野・中野・石田・富田
6/16(火)	図書館の利用法5	論文作成のための文献管理方法など	EndNoteについての講義	市川(学外)
6/23(火)	図書館の利用法6	著作権法上の注意事項とまとめ	著作権についての講義	花村・作野

3. 平成 22 年度特別講義と今後の課題

平成 22 年度の内容下表のとおりであった。当センターでは、計画的な業務委託を推進している⁴⁾。授業サポートは専任職員の人的サービスの一環として今後拡充したい。

平成 22 年度大学院歯学研究科特別講義 14:00～15:00				
日時	講義名		内容	担当者
5/10(月)	図書館の利用法1	歯学・薬学図書館情報センターの所蔵資源	歯学・薬学図書館情報センターの所蔵資源	富田
5/17(月)	図書館の利用法2	情報検索1	医中誌についての講義	中野
5/24(月)	図書館の利用法3	情報検索2	PuMedについての講義	柿田
5/31(月)	図書館の利用法4	情報検索3	医中誌・PubMedの実習	富田・中野・柿田
6/7(月)	図書館の利用法5	論文作成のための文献管理・著作権法上の注意事項	EndNoteについての講義、著作権について	市川(学外)

¹⁾ヘルスサイエンス情報専門員 上級

²⁾ヘルスサイエンス情報専門員 基礎

³⁾宮城泰子・作野誠. 愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センターにおける図書館ガイダンス: 本学における入学前 1 年間の図書館利用頻度調査を踏まえて. 医学図書館. 2010;57(2): 176 - 180 参照。

⁴⁾作野誠. 愛知学院大学における業務外注化の事例. 薬学図書館. 2008;53(4): 303-8 参照。

より迅速な医学文献提供を目指して：東京医科大学図書館相互貸借統計分析より

東京医科大学図書館 西 さやか

1. はじめに

電子ジャーナルやデータベースの普及により、日常業務の中でも近年の相互貸借の変化を感じることもある。今回、東京医科大学図書館内部資料である、「相互貸借統計(1958 年度分 - 2009 年度分)」をもとに当館における相互貸借の歴史的变化をみるとともに、その歴史を踏まえたうえで近年顕著に見られる傾向とその対策について考察を行うことにした。

2. 考察

50 年という長い歴史の中では、受付、申込ともに件数を伸ばしてきている。そのなかでも、テレックスの導入、NACSIS-ILL の導入という技術的革新のあった年の伸びは驚異的なものがある。しかし、近年の技術的革新の代表格ともいえる電子ジャーナルの登場により、相互貸借件数そのものは受付、申込ともに急激に数を減らしている。

近年顕著に見られる傾向として以下の点があげられる。

- (1) 受付では、大学からの申込の全体に占める割合が減り、その分病院からの申込が増えている。また、NACSIS-ILL 利用館と FAX 利用館の割合の変化もそれに比例する。

また、大学は距離的に近い関東地方からの申込の割合が圧倒的に多いことに比べ、病院はその他の地域からの申込の割合も高い。距離的な比例は見られず、北海道や沖縄といった遠隔地の常連的な病院の存在もある。

- (2) 申込では、2009 年度に看護師からの申込が急激に増えた。これは同年に始まった学内看護師向けの文献検索講義が功を奏したものと見られる。

3. 今後の課題

電子ジャーナルの普及による相互貸借の全体的な件数の減少は受付、申込両方について見られた。しかしながら、特定の分野、特に「看護」においてはその需要が急速に伸びており、蔵書構築も踏まえた広い視点から問題解決を図る必要がある。また、電子ジャーナルのみでしか公開されない文献も存在するようになった。電子ジャーナル受付不可の館の存在もまだまだ多く、電子ジャーナル受付可の場合でも冊子体に比べると所蔵状況の確認を取ることが難しい場合が多い。電子ジャーナル目録の整備もより重要になってくるのではないだろうか。

ニーズアンケート集計結果に基づく図書館整備

獨協医科大学図書館

小林 成江、矢口 裕子、吉新 裕昭、篠崎 徳子

【はじめに】

2008 年 9 月に「図書館の利用状況とニーズに関するアンケート」を実施した。その後、アンケート集計結果および図書館整備コンセプトに基づき、休日開館、機器設置エリア以外での水分摂取許可、グループ学習室の増設、PC ルームの新設等を実施した。図書館整備は複数年に渡り継続して実施しており、予算面、施設面共に限られた範囲内でどのように実行しているかを報告する。

【図書館整備コンセプト】

● 学習図書館

- ◆ 明るく行きたくなる図書館。行ってみたら居心地が良くリピーターとなる図書館。
- ◆ 目的別にエリア分けされ、配置・サービス内容が明確で利用しやすい図書館。
- ◆ サービスが充実した図書館、

コンセントレーションスペース、コラボレーションスペース、インフォメーションスペース、コミュニケーションスペース、ストレージスペース

- 静寂エリア：インターネット（文献検索・レポート作成用）、研究個室、広い机・キャレル
- 喧噪エリア：インターネット（講習会・共同作業用）、レファレンスカウンター、ブラウジングルーム

【実施内容】

- グループ学習室の移設・増設
- 検索用 PC スペース拡大
- PC ルームの新設
- 休日開館の実施
- 機器設置エリア以外での水分摂取許可
- 図書館サインの整備
- 人工樹木の設置 ほか

【工夫内容】

- 間接経費の申請（競争的資金を獲得した研究代表者の研究環境の改善や研究機関全体の機能向上のために使用可能な資金）
- 廉価品の購入
- 既存品の流用
- 図書館予算と大学施設課予算の併用
- 複数年に渡る整備

大学司書課程（専門資料論）における病名別パスファインダーの作成・方法・評価

実践女子大学 竹内ひとみ

< 目的 > 司書課程に於いては前期に「レファレンスサービス演習」を学び、後期に「専門資料論」を行うが、この専門資料論で前期で学んだレファレンス資料についての紙、デジタル資料の双方の資料検索能力向上のための一環として、この課題が有効ではと考えパスファインダー作成を数年行っている。

< 方法 > 次の順序でパスファインダー作成を行う。

- 1．学生は各自関心のある病名を決める。 例）新型インフルエンザ、慢性疲労症候群、顎関節症等
- 2．レファレンス資料を調べる。
まず、その病気の定義、概要等を百科事典、医学辞典等で調べる（出典を必ずメモする）。
件名（NDL-OPAC の件名等）同義語、類義語、シソーラス（JST）キーワードを調べる
- 3．参考となるパスファインダーや「調べ方」に当たる
国立国会図書館調べ案内、愛知淑徳大学パスファインダー等
- 4．関連図書を調べる（50～200 字程度の資料の特徴についての説明をつける）
NDL-OPAC<http://www.ndl.go.jp>
Webcat Plus
- 5．雑誌記事を探す NDL-OPAC<http://www.ndl.go.jp> , CiNii 雑誌記事索引
医学中央雑誌 PubMed J Dream
- 6．新聞記事、ネット情報を調べる：最新の情報、傾向等を探す
聞蔵、佐賀新聞、日経テレコム等
- 7．闘病記を調べる（50～200 字程度の説明をつける）
健康情報棚プロジェクト、都立中央図書館 HP、国立国会図書館 HP
- 8．医学図書館等関連組織、各種の患者組織、図書館を調べる
- 9．専門病院、専門家を調べる
- 10．A3 用紙の両面に 1～9 までの情報を見やすいレイアウトで表現する。

< 評価ポイント > 医学の進歩が速いので、いかに新しくかつ客観的な情報を提供していけるか等、幾つかの評価ポイントを決めて評価を行う。

< 今後の課題・方向 >

・飽くまでも現在は初歩的なレベルなので、健康情報等を提供している公共図書館、医学図書館の動向を注視しながら今後の発展方向を見出していきたいと考えている。

看護文献データベース「最新看護索引 Web」の作成と利用動向

(社)日本看護協会図書館 江藤夏子 今泉千代

. 「最新看護索引 Web」の概要と特徴

日本看護協会（以下本会）図書館では、2007 年 3 月に本会公式ホームページの会員専用ページより「最新看護索引 Web(以下索引 Web)」を公開した。2009 年 3 月には図書館等の機関向けにライブラリー・プラスより有料で公開をした。「索引 Web」は、看護職と司書が連携し作成している看護分野に特化したデータベースである。キーワードも看護職になじみやすい用語を中心に採用している。高度な検索機能はないが、その分安価（本会会員は無料、機関契約は月額 1,050 円～）な提供を可能としている。収録件数は 185,852 件（2010 年 8 月現在）、収載誌数は 801 誌（休・廃刊、採録中止誌を含む）、更新頻度は月 1 回である。

. 利用動向調査

「索引 Web」公開後の 3 年間の利用実績（アクセス数 検索ログ分析 複写申込統計）から動向を分析した。

アクセス数：2009 年度は 100 万アクセスを超えた。時間別でみると、11 時～19 時と 23 時は 4 万回以上あり、最も多いのが 15 時で、6 万回以上である。また明け方の 3～4 時頃でも 1 万回前後のアクセスがあり、24 時間通して利用されている。

検索ログ分析：検索画面は簡易検索と条件検索がある。検索ログの総数は 796,068 回で、その内、簡易検索の利用が 86%を占める。検索結果が 0 件だったのは、簡易検索は 34%、条件検索は 45%で、簡易検索は全項目を検索対象としていることもあり、なんらかの結果が得やすい。

複写申込統計：勤務先に図書館がない場合も想定し、会員向けは検索結果からそのまま Web で複写申込を可能とした。その結果、索引 Web 公開前は 3～4,000 件を推移していたが、公開後の 2007 年度は 11,248 件と公開前に比べ約 3 倍になった。2008 年度は 15,191 件、2009 年度は 14,093 件であった。

. 考察

時間を問わず簡便に文献検索ができ、複写の入手に連動している「索引 Web」のシステムは現状のニーズに合致したと推測できる。機関契約の場合は図書館支援があると考え、Web からの複写申込機能はないが、所属図書館経由の複写申込みは可能である。2009 年に機関向け公開をしたにもかかわらず、複写申込件数に減少傾向が見られたことは、身近な図書館で文献を入手できる環境が整ってきたことも一因と考えられる。今後は、検索結果から身近な図書館の OPAC や電子ジャーナルへのリンク機能の導入等システムの充実を検討していくとともに、積極的な広報活動にも取り組んでいきたい。

参考文献) 今泉千代：最新看護索引 Web の紹介，看護と情報 17：57-61，2010．

市民向け情報閲覧コーナーの活用きっかけづくり ブックリスト改訂
～プロジェクト立ち上げ～

聖路加看護大学 図書館 佐藤晋巨
川鉄千葉病院看護専門学校 非常勤講師 石川道子

課題と解決方法：

聖路加看護大学健康ナビスポット：るかなび（以降、「るかなび」）には、約 2,000 冊の図書が置かれている。図書が増えるにつれ、利用者が資料選択に迷う、るかなびで活動するメンバーがあるはずの図書を探し出せない事例が出てきた。また、以前から「るかなび」での活動に図書資料が活かされていないとの指摘もあった。（松本 2006）

このような課題に対して、「るかなび」にある図書に親しんでもらい、図書を健康相談、医療情報サービス活動に生かすことを目的としたプロジェクトの第 1 段階として闘病記ブックリストの改訂を、「るかなび」で活動する多くのメンバーと共に開始した。

背景：

「るかなび」は、ピープル・センタード・ケア（PCC：市民が主体となり、専門家と協働しながら社会における健康を増進していくことをめざすケア）に基づき、「市民が健康行動を選ぶのに十分かつ確かな健康情報を誰でも手に入れられる環境が必要」との考え方から 2004 年 5 月に開設した。（菱沼 2008）民間団体「健康情報棚プロジェクト」から 1000 冊の闘病記の寄贈を受け、その後「るかなび」で継続的に闘病記を収集し、現在「るかなび闘病記文庫」には約 1500 冊の闘病記がある。この他に「るかなび」には健康関連資料が 900 冊ある。現在司書は週 1 回「るかなび」で勤務している。

ブックリスト改訂作業：

2008 年に作成した闘病記ブックリスト改訂の要旨は、闘病記以外の図書も対象とし、まずは「るかなび」にある資料を活用するきっかけとなるようなコメントをブックリストに加えることとした。また、「るかなび」に来なくてもブックリストを利用できるように、ホームページでの公開、他のサービスを活用することとした。夏休みの課題図書として、全ての「るかなび」メンバーに 1 人 1 冊以上の図書紹介文の作成をお願いし、それを元にブックリスト改訂、他のサービスを利用して、まず、サービスを提供する側が健康情報を手に取る、そのきっかけ作りを進めている。

患者図書室の継続的運営の取り組み

- 開室 11 年目を迎えて -

大岩美恵子

総合病院聖隷三方原病院図書室

1. 患者図書室設立の経緯

聖隷三方原病院（以下、当院）には、患者図書室「患者さんのための『医学情報プラザ』」が開室されている。インフォームド・コンセント（十分な説明に基づく同意）の一環として常設の患者図書室が 1999 年 6 月に設置されたのは静岡県内初めてのことであった。1992 年「患者の権利に関する宣言」を掲げ（1981 年世界医師会「リスボン宣言」参考）早い段階から患者さんの知る権利を大切にしようという病院側の思いが設立に大きく寄与した例である。

2. 患者図書室の現状

2002 年 6 月に旧ホスピス礼拝堂から現在の病院 1 階中央の中庭を望む場所に移転リニューアルオープンし、室内は以前より明るく静かな患者図書室となった。先述のとおりインフォームド・コンセントを支援する一環として設立した経緯があることから、蔵書構成は主に医療情報の提供としており、医学専門書を中心に年間購読雑誌、パンフレット等を揃えている。1999 年開室当初においては読み物や娯楽書、一般書（闘病記を含む）などの寄贈書なども加えると、一般書 2,500 冊、医学書 500 冊を所蔵していたが、移転後の所蔵は、約 1,000 冊である。インターネット接続のパソコンや視聴覚資料閲覧のための DVD 機器、コピー機（有料）も備え、ボランティアの方々によって運営している。病院図書室司書が選書協力として運営に参加するが、全体的な管理はボランティア委員会が担当している。

3. 患者図書室を取り巻く環境の変化

開室から 10 年以上が経ち、患者図書室を取り巻く環境も大きく変わってきた。医学の進歩、医療技術の開発や多様化、人口の高齢化、インフォームド・コンセントの確立やセカンド・オピニオンの普及などの様々な社会的背景や人々の生活様式、考え方の変化が患者図書室への患者さんのニーズに影響を及ぼしている。

また、インターネットの普及は膨大な情報を容易に取得できるようになった反面、情報の選択や信頼性の問題、デジタルデバイド（情報格差）の問題など様々な指摘がなされている。一方、患者さん側の知識も増大し、患者さんの「知る権利」や医療・健康情報ニーズへの意識が高くなり、患者図書室へのニーズも多様化してきている。

4. 継続的運営の課題

開室以来の患者図書室における課題は、蔵書の刷新とサービスの活性化である。患者図書室を取り巻く環境の変化において、患者さんのために役立つ患者図書室サービスをどのように提供していくべきなのかを模索している。全国でも患者図書室の新設が多くなる中で、開室から 11 年目を迎えた当院の患者図書室の取り組みと課題を報告する。

(財)東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所 図書室の歩み
東京都神経科学総合研究所 図書室 鷹野祐子・赤沢友子

．目的

(財)東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所(以下、研究所)図書室は、東京都府中市にある。神経系及びその疾患並びに神経疾患による心身障害児(者)に関する研究を統合的に行うことを目的に 1972(昭和 47)年 4 月研究所が設立された。周辺には都立の関係医療機関が集中しており、総称して多摩キャンパス(旧称府中キャンパス)と呼ばれる。研究所は 2011(平成 23)年春に、同じ(財)東京都医学研究機構の東京都精神医学総合研究所、東京都臨床医学総合研究所と統合される予定である。本報告では、閉所を機会にこれまでの図書室の活動の歩みをまとめる。

．方法

図書室活動の歩み、利用者アンケートの成果、雑誌選定タイトルの推移、私費有料文献複写サービスの視点から、その歩みをまとめる。

．結果

1972(昭和 47)年の図書室発足時からの研究所年報、図書室原簿、図書委員会議事録を調査し図書室活動の年表を作成した。その活動は主に洋雑誌の蔵書構築と大きく結びついていた¹⁾。多摩キャンパス内関連施設を対象としたアンケートを 2002(平成 14)年と 2009(平成 21)年に行った。平成 14 年のアンケート結果では、図書サービス周知が不十分であったこと、ネットワーク環境による情報の共有化および文献複写サービスの充実が課題であった²⁾。その後、図書室利用研修、ポスターの作成、看護研修への参加を行った結果、多摩キャンパス内図書室の相互利用について認知度は、2002(平成 14)年では半数に満たなかったが 2009(平成 21)年では約 6 割と増加し、文献複写サービス件数も増加した。所蔵雑誌タイトル、1972(昭和 47)年から 2008(平成 20)年の蔵書タイトルを主題に分けた所蔵状況と、洋雑誌タイトル数と購入予算の推移を調査した¹⁾。洋雑誌タイトル数は 1974(昭和 49)年度の最多時 290 から 2006(平成 18)年度の最小時 73 まで大きく変動していた。有料の文献複写サービスを公費で利用ができない研究や医療にかかわる職員のために、2005(平成 17)年 4 月に神経研 ILL 会を発足した。この会は、国立情報学研究所(NII)目録所在サービス(NACSIS-CAT)および文献相互貸借(以下、ILL)サービス(NACSIS-ILL)を利用した私費文献複写サービスを提供する会である。この会の発足までの経緯と、その後の利用について報告する³⁾。

．考察

神経科学系の専門図書館は国内でも数が少ない。38 年間の過去の取り組みをまとめる機会を得て、大変得るものがあった。今後は機会があれば 2011(平成 23)年春の移転についてまとめたいと思う。

- 1) 鷹野祐子、赤沢友子. 神経科学系専門図書館における選定雑誌タイトルの推移. 第 26 回医学情報サービス研究大会抄録集:2009 年 7 月 4-5 日;東京:医学情報サービス研究会;2009.
- 2) 赤沢友子、鷹野祐子. 地域連携の取り組み - 府中キャンパス図書担当者連絡会 -. 第 21 回医学情報サービス研究大会抄録集:2004 年 7 月 3-4 日;東京:医学情報サービス研究会;2004.
- 3) 鷹野祐子、赤沢友子. 私費有料文献複写サービス 神経研 ILL 会の事例報告. 医学図書館:2010;57(3)(印刷中).

臨床の現場で学ぶ医学情報

—公共図書館員向け「医学情報キホン勉強会」を主催して—

静岡県立こども病院図書室 塚田薫代

医学・健康情報について、ごく初歩的な事を丁寧に解説し、実習・見学を交えて自主的に勉強することを目的として全3回の勉強会を開催した。主催は当院、共催は静岡県立中央図書館にお願いした。対象は、医学・健康情報に興味のある図書館職員（公共図書館、学校図書館その他館種及び職種を問わない）全3回の日程とし、各々独立したテーマを採り上げ、1回の参加でも可能とした。専用のホームページを立ち上げ、講義資料、ブックリスト、演習問題等を同時進行でアップロードし、情報の共有化を計ったのも特徴である。

http://book.geocities.jp/shizu_pediatrics46/

【第1回目キホンのキ】2010年6月28日（月） 参加者 46名

テーマ：病気の調べ方・病態生理・医学用語

会場：当院

[病院図書室の役割とは？病名・病態とは何か？エビデンスとは何か？利用者にインタビューする際の注意点は？]などである。予め、県内公共図書館員に計り、答えに窮したレファレンスを挙げてもらい、その回答例を引用しながら具体的に解説することを心がけた。

【第2回目キホンのホ】2010年7月12日（月） 参加者 54名

テーマ：選書

会場：当院

選書の悩みに応える具体的対応として[出版社・著者・内容・価格・WebCatでの検索]を挙げた。

医学書の賞味期限が5年であること、代替医療の本について、リスエスト本にどう応えるかなど、現場の悩みに添って講義をすすめた。選書には、エビデンス（医学的根拠）のみならず、ナラティブ（患者さんの心に寄り添う）な情報が不可欠である点を、図を駆使し強調した。

【第3回目キホンのン】2010年7月16日（月） 参加者 52名

テーマ：Web情報の評価・他機関との連携

会場：県図

この回はパソコン実習、2人1台でディスカッションしながら進んできた。Web上に氾濫する情報を評価する手段としてDISCERNを使用し、実際に5つのサイトを評価する実習を行う。その後、実際に閲覧しながら、レファレンスに使えるサイトを紹介、解説する。

参加者感想より

*連携できる機関や役立つ資料がこんなにたくさんあることを知り、心強く、そして目の前が少し明るくなった。

*漠然とした問題（主題）だったので、スッキリしてモチベーションがアップ！

*「医学情報って苦手だなあ」という感覚が薄らいだ。

ニーズが高いにも関わらず、曖昧な捉え方をしていた「公共図書館における医学情報」提供に対し、敷居を下げ、興味を持って取り組んでもらえる「手がかかり」となった。

各回、医療のプロフェッショナルをゲストに招いて、そのspiritsに触れていただくことにより我々医療者サイドにとっても、現場を知って理解していただく好機であった。

公共図書館におけるサービスを知り、今後、医学図書館協会へフィードバックできると確信する。